

路線バスの見直しについて

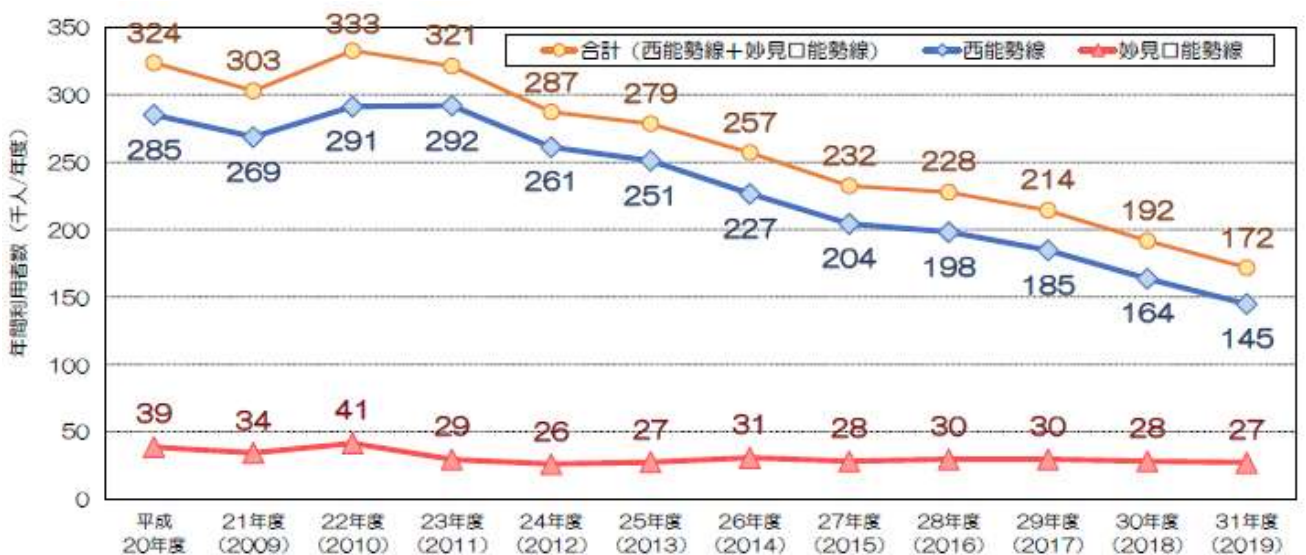
令和2年（2020年）12月24日
能勢町



能勢PR キャラクター
「お浄・るりりん（アマビエver）」

1-1. 路線バスを取り巻く現状について

年間利用者の推移



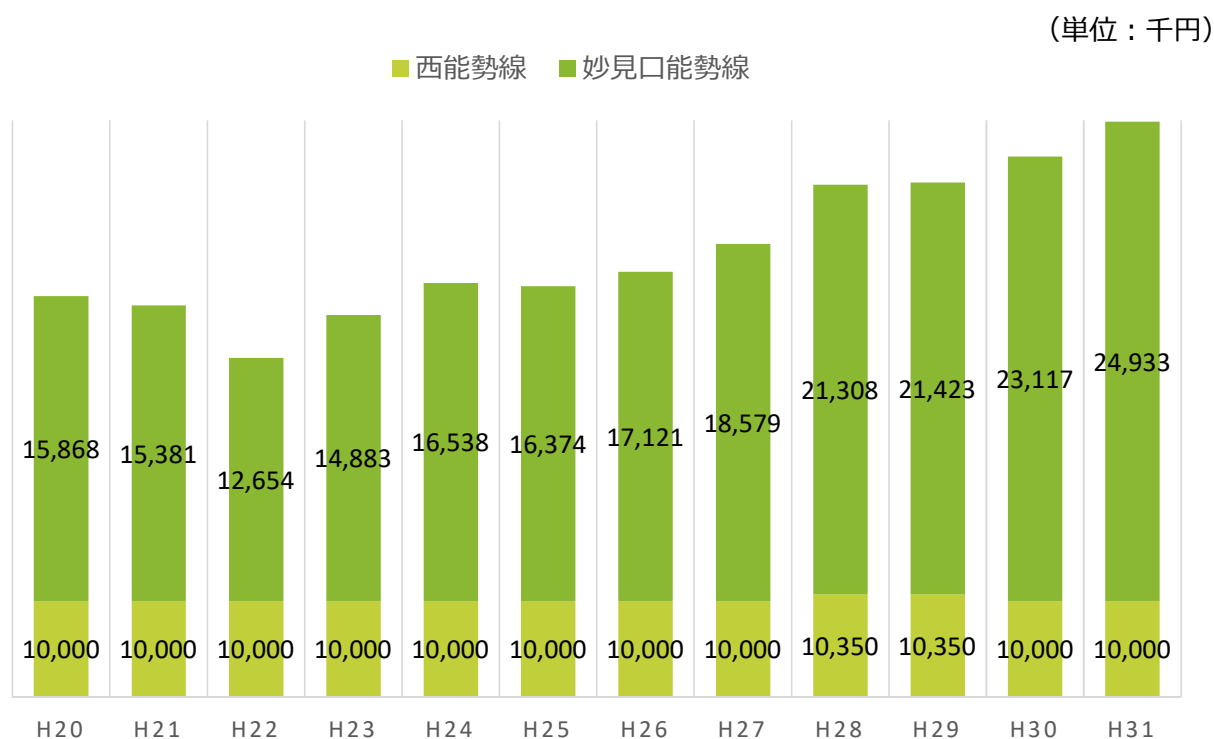
※阪急バス株式会社資料をもとに作成

○路線バスの年間利用者数を見ると、平成31年度は年間約**172千人**と平成20年度の約**5割**に減少している。

○路線別に見ると、西能勢線において、平成23年度以降は減少傾向、妙見口能勢線も平成29年度以降は減少傾向にある。

1-2. 路線バスを取り巻く現状について

■ 地方バス路線維持費補助金の推移



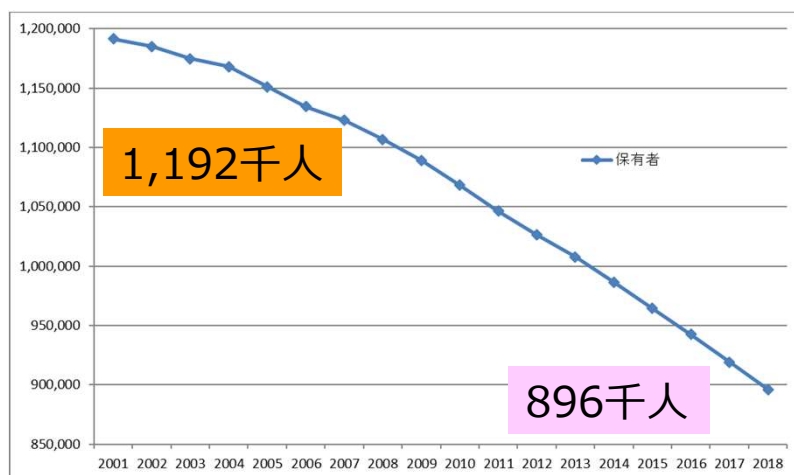
○路線バスの維持を図るために、運行経費の赤字分を妙見口能勢線は全額負担、西能勢線は上限1,000万円/年を負担している。

○平成31年度は年間約**3,500万円**を負担しており、近年は負担額が**増加**傾向にある。

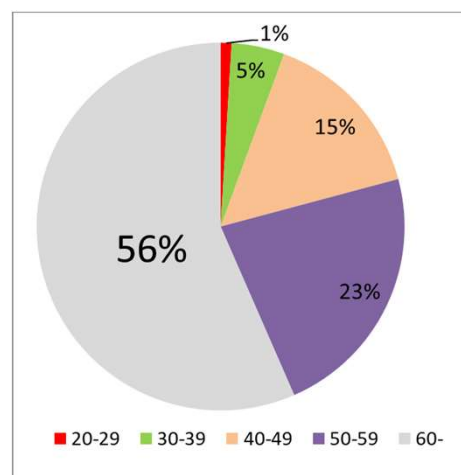
○この負担金だけで路線バスの赤字をすべて賄うものではなく、**バス事業者も多額の赤字を負担**し、運行を続けている。

1-3. 路線バスを取り巻く現状について

■大型2種免許の保有状況



＜年代別構成比＞



阪急バス株式会社提供資料

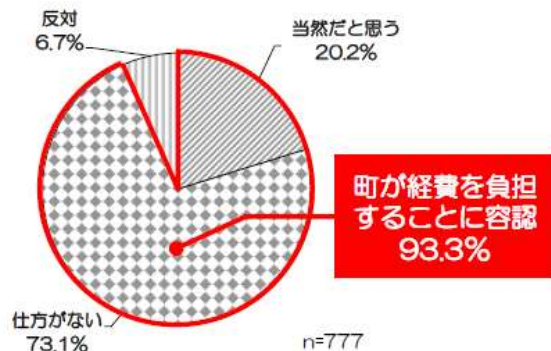
○バス事業者は大型自動車第2種免許証の保有者数及び新規取得者数の減少等により、**乗務員が慢性的に不足**。

○阪急バス株式会社においても平成31年4月から運転士の正社員採用を行うなど積極的な採用活動を行っているが、乗務員の確保に苦慮。

2-1. 路線バスの見直しについて

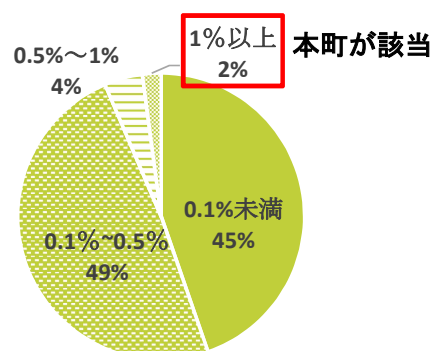
経緯

- 路線バスを維持・充実させるために町が経費を負担することについて



※住民アンケート結果より

- 一般会計予算額に占める地域公共交通予算額の割合



※大阪府地域公共交通研修会資料より

○R3年1月から減便が予定されていたが、現行ダイヤでの運行を維持するために、**追加補助金17,000千円**（1月～3月分）を12月議会に上程。 ※当初予算35,600千円

○しかしながら、本町では一般会計予算額に占める地域公共交通予算額の割合が他自治体より高くなっており、これ以上の財政負担が厳しくなっている。

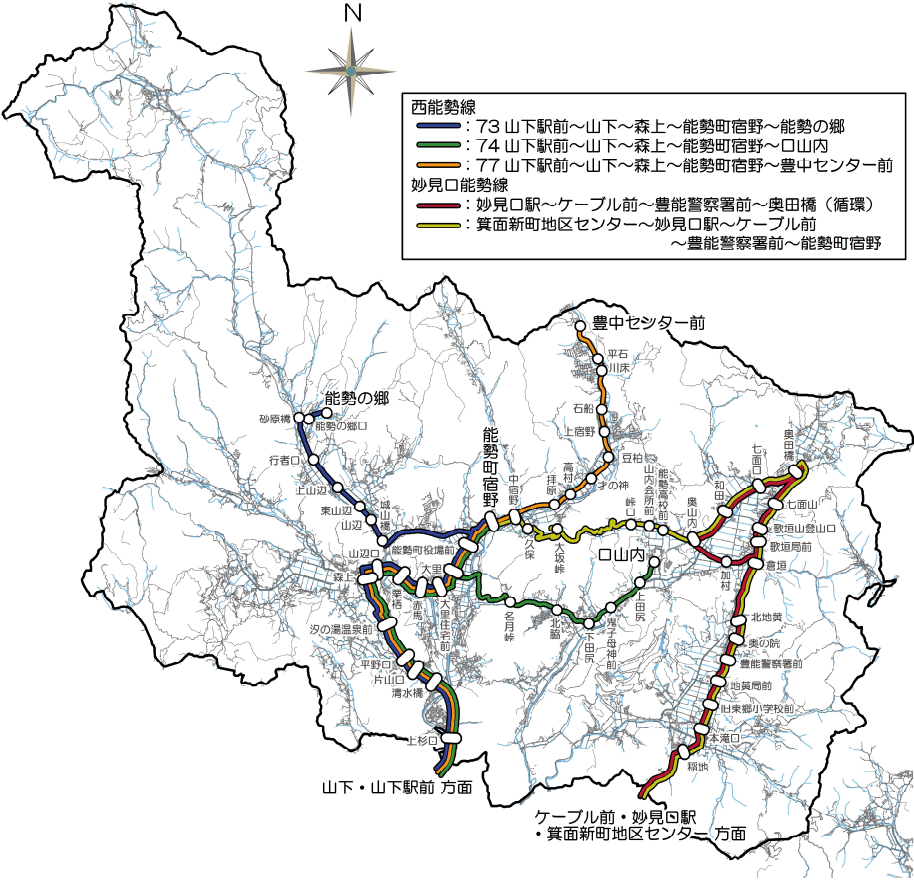
○このため、R3年4月以降、**路線の見直し（減便）が実施**される予定。

○つについては、公費負担を住民サービスに有効に還元していくために本会議において、交通ネットワークを再構築する。

2-2. 路線バスの見直しについて

■現時点での路線バスの主な見直し内容（予定）

●現在のバスネットワークの状況



○減便を含めた路線全体の見直し

- 路線の廃止検討
西能勢線 「能勢町宿野～能勢の郷」
 - ・利用者が著しく少ない区間。
 - ・現在、平日運休、土休日往復2便のみ
- 妙見口能勢線 「能勢町宿野～能勢高校前」
 - ・平成30年9月から通行止めに伴い運休